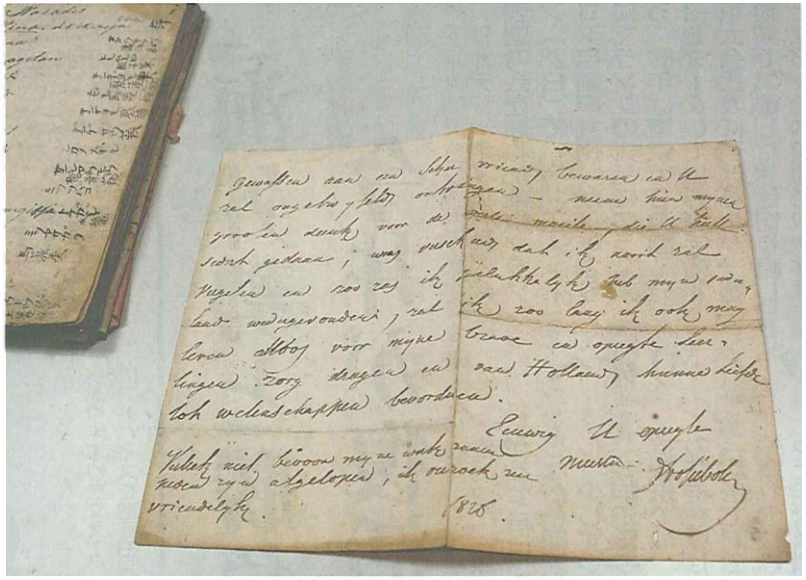
媒体名	毎日新聞　夕刊	版／面	3版／10面(社会)	掲載日	2016年2月18日(木)

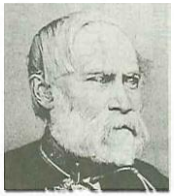
植物目録 改定促す書簡

シーボルト直筆発見

日本の弟子に 神田外語大公開



神田外語大で見つかったシーボルトの書簡。左上は「日本植物目録」＝千葉市美浜区の神田外語大で、円谷美晶撮影



フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト

江戸時代、西洋医学を日本に伝えた長崎・出島のオランダ商館医で博物学者のシーボルトが、日本人の弟子に宛ててオランダ語で書いた直筆の書簡が、神田外語大学（千葉市美浜区）で見つかった。帰国を前に、自身がまとめた「日本植物目録」の草稿を急いで改定するよう催促する内容だ。書簡は国内で6通見つかっているが、日本の植物研究に関するものは初めてという。

書簡は、同大が保管する「日本植物目録」に挟まれていたのを同大日本研究所の町田明広副所長が見つけた。弟子で後に島原藩医となる賀来佐一郎佐之宛てで、厚い信頼をにじませながら「どうか努めて目録を完成させるようにしてください」「私の仕事が終わる前に（長崎を）出発しないように」などと求めている。

書かれたのは1828年10～11月とみられる。シーボルトは同年12月、国外持ち出しが禁じられていた日本地図などの資料を持って帰国しようとしたとして出国を差し止められ、出島に幽閉されて1830年1月に国外追放となった。

町田副所長によると、シーボルトは弟子の医師で「おしべ」「めしべ」という言葉を作った伊藤圭介らの協力を得て、約1600種の植物標本に学名と和名をつけて分類し、「日本植物目録」をまとめた。賀来の存在はほとんど知られていなかったが、今回の書簡の発見で、目録の完成に大きな役割を果たしたことが明らかになったという。

書簡と植物目録は同大図書館で18～26日（土日除く）午前10時～午後4時、一般公開されている。【円谷美晶】

シーボルト　ドイツ人の医師・博物学者（1796～1866年）。江戸時代後期の1823（文政6）年、鎖国中の日本の調査を目的に長崎・出島のオランダ商館医として来日。私塾「鳴滝塾」で多くの弟子にオランダ語や医学を教えた。日本の地理や歴史、植物なども研究。シーボルト事件で国外追放となったが、収集した日本の民俗学的資料を大量に持ち帰り、日本研究の推進者となった。